

映画『白毛女』論

藤 森 猛

摘 要

一九四五年歌劇《白毛女》在延安的魯迅艺术学院首演（主角；王昆），一九五〇年电影《白毛女》在长春的东北电影制片厂摄制（主角；田华），一九五五年芭蕾舞《白毛女》在东京的松山芭蕾舞团首演（主角；松山树子）。本轮通过歌劇《白毛女》、电影《白毛女》和芭蕾舞《白毛女》的制作过程，再考《白毛女》的历史上、艺术上的意义。

关键词：歌劇《白毛女》、电影《白毛女》、芭蕾舞《白毛女》、喜儿、王昆、田华、松山树子、森下洋子、魯迅艺术学院、东北电影制片厂、松山芭蕾舞团

はじめに

中国の民間伝説「白毛仙女」は、1945年に歌劇『白毛女』となり、1950年に映画『白毛女』となり、1955年には日本の松山バレエ団によりバレエ『白毛女』となり、中国を代表する文芸作品となっている。3つの『白毛女』の制作過程を分析し、『白毛女』が持つ歴史的な価値を再考する。

一 歌劇『白毛女』の制作

(1) 歌劇『白毛女』の上演

1940年中国河北省西北部で農夫の娘が「白毛仙女」となるうわさが広まり、この話は当時の中国共産党の根拠地延安にあった魯迅芸術学院の文芸工作者に1944年頃伝わり、歌劇

『白毛女』の制作が始まったと言われている¹⁾。

表1は歌劇『白毛女』の主なスタッフである。1945年1月に延安の魯迅芸術学院で初演を迎えた歌劇『白毛女』は、脚色と試演が繰り返され、西洋のグランドオペラの形式をとらず、河北の民謡「小白菜」などを取り入れ、話劇（現代劇）の1ジャンルの新歌劇として、延安で30回あまり上演された²⁾。

1945年10月には河北省の張家口で上演され、主人公の喜児の許婚である王大春が共産党の八路軍に参加して帰るストーリーが加えられ、脚本、音楽とも改編され、1946年1月から張家口で30回あまり上演された³⁾。

主演の喜児役は、魯迅芸術学院による初演時から王昆によって演じられていたが、1948年の石家荘の中国人民解放軍抗敵劇社による上演では、喜児役に郭蘭英が抜擢された⁴⁾。郭蘭英はその後約15年間にわたり、中央実験歌劇舞劇院、中央歌劇舞劇院、中央戯劇学院歌劇団に所蔵し、北京をはじめとする各地でのべ100回あまりの上演に参加した⁵⁾。

表1 歌劇『白毛女』（1945年、魯迅芸術学院）の主なスタッフ

制作陣容（スタッフ）	主な担当者
脚本	賀敬之、丁毅
作曲	馬可、張魯、瞿維、向隅
舞台監督	王大化、舒強、張水華
舞台設計	許珂
主演	王昆

（出所）田本相主編『中国話劇百年図史（上巻）』山西教育出版社、2006年、245ページ、董健主編『中国現代戯劇総目提要』南京大学出版社、2003年、1552ページ参照。

(2) 歌劇『白毛女』の物語

表2は1946年版の歌劇『白毛女』の主なストーリーである。第一幕では小作人の楊白勞の娘喜児が地主黄世仁の家に売られ、楊白勞は亡くなる。第二幕では喜児は地主の黄家で地主やその母に虐げられる。第三幕では地主の母が妊娠した喜児を人買いに売ろうとし、喜児は逃走して、復讐を誓う。第四幕では山の洞窟に隠れた喜児は「白毛仙女」となる。第五幕では白毛仙女となった喜児が八路軍に加わって村に帰った許嫁王大春と再会し、地主黄世仁らの罪が裁かれる。

1942年毛沢東による延安文芸講話により、文芸活動は「人民のために、社会主義のために」行なわれなくてはならないとする「二為」の方針が定められた⁶⁾。こうした中で延安の魯迅芸術文学院では、共産党による集団指導によって、『白毛女』は五幕十六場の新歌劇として制作された⁷⁾。さらに1952年、北京の中央戯劇学院で上演されたのを機に、歌劇『白毛女』は、西洋的なオペラではなく、演劇の中の1ジャンルである現代劇（話劇）として定着したといえる⁸⁾。

映画『白毛女』論

表2 歌劇『白毛女』ストーリー（五幕十六場）

場面	あらすじ
第一幕第一場	1935年河北省楊格村。小作農楊白勞、娘の喜児が餃子を作って新年の喜びを迎える。突然地主（黄家）の黄世仁と黄家の使用人番頭穆仁智が家に入ってくる。
第一幕第二場	地主黄世仁の家。債務を負って借金を返せなくなった楊白勞は、借金の担保に娘喜児を売る契約を結ばされる。
第一幕第三場	村の小道。喜児と許嫁王大春一家が餃子で年越しをしている時、吹雪の中で楊白勞は亡くなる。
第一幕第四場	正月元旦。楊白勞が死んでいるのがみつき、喜児は悲しみにくれる。喜児は地主の家の者に捕らえられる。
第二幕第一場	地主黄世仁の家。地主の家の母（黄母）は喜児を紅喜と改名して働かす。
第二幕第二場	1ヶ月後。王大春は地主の家に行くが喜児に会えず、捕まえられ、やっとのことで王大春は逃げのびる。
第二幕第三場	地主黄世仁の家。喜児は地主の母に虐待を受ける。深夜、喜児は地主の書齋に無理矢理連れ込まれる。
第二幕第四場	喜児は黄家召使張お婆（二嬸）に助け出される。地主の母の前に連れて行かれる。
第三幕第一場	7ヶ月後。地主黄世仁は妊娠した喜児を嫁にもらうと言って騙す。
第三幕第二場	喜児が妊娠したことを知った地主の母が怒る。喜児を人買いに売ろうとし、喜児は裏門から逃亡する。
第三幕第三場	喜児は逃げる途中、河辺の泥で足をとられる。追ってきた地主は、河辺にあった喜児の靴を見て、彼女が自殺したと思う。喜児は復讐を誓う。
第四幕第一場	1937年春。喜児は山の洞窟に隠れ、髪は白髪になり、「白毛仙女」となる。お寺で雨宿りしていた地主らは喜児を幽霊だと思って逃げる。
第四幕第二場	次の日、八路軍に加わった王大春が村に帰り、母子が再会する。
第五幕第一場	1938年春。村に白毛仙女の噂話が流れ、王大春は白毛女の正体を調べようと決める。
第五幕第二場	夜、王大春は寺に隠れているところに、白毛仙女（喜児）が現れる。喜児は山の洞窟に逃げ、洞窟で喜児と王大春はあらためて再会を喜び合う。
第五幕第三場	翌日の朝、黄家の祠の前。会議が開かれ、地主黄世仁、穆仁智の罪が裁かれ、区長は黄世仁らの逮捕を宣言する。きらきらとまぶしい光が村を照らす。

（出所）董健『中国現代戯劇総目提要』南京大学出版社、2003年、1552ページ参照。

二 映画『白毛女』の制作

(1) 映画『白毛女』の制作

表3は1950年、東北電影製片廠（1955年に長春電影製作片廠に改名）によって制作された映画『白毛女』の主なスタッフである⁹⁾。歌劇『白毛女』を作った延安の魯迅芸術学院の関係者は、当時の最大の映画撮影所であった東北電影製片廠に結集し、映画撮影が行なわれた。

映画のシナリオは、魯迅芸術学院の賀敬之、丁毅によって作られた歌劇『白毛女』の脚本

をベースに、王濱、水華らによって改編された。王濱は1939年に魯迅芸術学院・実験劇団の副団長となり、映画『白毛女』の監督となった¹⁰⁾。水華は1940年に魯迅芸術学院の戯劇音楽専攻の教員として、魯迅芸術学院・実験劇団の舞台監督となり、映画『白毛女』の共同監督となった¹¹⁾。

音楽は、歌劇『白毛女』の作曲を担当した魯迅芸術学院の瞿維、張魯、馬可がそのまま映画音楽を担当した¹²⁾。また張敬之、張松如が作詞を担当した劇中歌は、映画『白毛女』の中では、すべて字幕スーパーで表示された¹³⁾。

主演の喜児役には華北前線部隊の歌劇などに出演していた田華が抜擢された¹⁴⁾。また喜児の許嫁の王大春役には魯迅芸術学院で学び1949年に東北電影製片廠の俳優となった李百万が選ばれた¹⁵⁾。また地主黄世仁の役には、魯迅芸術学院の俳優で1945年の歌劇『白毛女』で黄世仁役を演じた陳強が、映画『白毛女』でも黄世仁役を演じた¹⁶⁾。

表3 映画『白毛女』(1950年、東北電影製片廠)の主なスタッフ

制作陣容 (スタッフ)	主な担当者
原著 (脚本)	魯迅芸術学院, 賀敬之, 丁毅
シナリオ (改編)	水華, 王濱, 楊潤身
監督	王濱, 水華
助監督	王光彦
撮影指導	吳蔚雲
撮影	錢江
作曲	瞿維, 張魯, 馬可
作詞	張敬之, 張松如
演奏	長春電影製片廠楽隊
指揮	尹昇山, 李秉中
挿入歌演奏者 (吹替え歌手)	王昆, 孟子, 張平, 李耀東
美術設計	盧淦
主演	田華
助演	李百万, 陳強, 張守維, 胡朋, 李壬林

(出所) 張駿祥, 程季華主編『中国電影大辞典』上海辞書出版社, 1995年, 21ページおよび長春電影製片廠撮影『白毛女』北京北影錄音录像公司 (VCD) 参照。

(2) 映画『白毛女』の物語改編

1940年歌劇『白毛女』は延安での公演の反響が大きく、初公演の翌日には、共産党中央弁公室から中央書記局の意見が送付された¹⁷⁾。高波氏によると、共産党中央の意見では、第一に劇が時宜にかなったものであり、第二に地主黄世仁は銃殺すべきであり、第三に芸術的に成功してるとの意見が出された¹⁸⁾。また結末のシーンでは、地主黄世仁が公開裁判によっ

映画『白毛女』論

て銃殺刑にすることを村の長（区長）が宣言すべきであるとの意見が出された¹⁹⁾。また1945年の張家口などの歌劇『白毛女』の公演を経て、許嫁の王大春が八路軍（紅軍）に加わる過程、小作人楊白勞の服毒自殺の場面などに、共産党中央の意見が反映され、歌劇『白毛女』の脚本の改編が行なわれ、映画『白毛女』のシナリオが書かれたといわれる²⁰⁾。

表4は1950年映画『白毛女』のストーリーの改編部分である。1945年歌劇『白毛女』の公演以後様々な反響や共産党からの意見が出されたが、魯迅芸術学院出身の監督である王濱、水華は、魯迅芸術学院で賀敬之、丁毅の2名によって書かれた歌劇『白毛女』の原著をそのまま採用し、ストーリーに大きな脚色はみられない。

また映画では、搾取階級である黄世仁、黄母、穆仁智が悪役で、喜兒、王大春、楊白勞などの労働者が正義役であることがはっきりと分かれて描かれている。また野外撮影をした場

表4 映画『白毛女』のストーリー改編部分

場面	主な改編シーン
第一幕のプロット	<ul style="list-style-type: none"> ・映画冒頭シーンで秋の収穫期の村を映し出し、小作農の暮らしの苦しさ、地主黄家による搾取を歌と字幕で紹介する。 ・借金返済の現金収入のために、喜兒たちは山の断崖に薬草を取りに行く。 ・地主の黄世仁、使用人の穆仁智によって、楊白勞は娘喜兒を売る契約書に無理矢理に血判捺印を強いられる。 ・八路軍（紅軍）の話王大春が聞く場面では、八路軍の行軍・戦闘シーンが映し出される。
第二幕のプロット	<ul style="list-style-type: none"> ・地主黄家の使用人穆仁智がピストルで脅して、喜兒を黄家に連れて行く。 ・黄家の母（黄母）から喜兒への虐待として、黄母はお灸の火を喜兒の顔に当てる。
第三幕のプロット	<ul style="list-style-type: none"> ・喜兒はなぜこんなに自分たちが貧しく、苦しい生活をするのかを歌の中で問いかける。 ・村から逃れた王大春は八路軍を探し、山の頂で八路軍に救いの手を差し伸べられる。
第四幕のプロット	<ul style="list-style-type: none"> ・喜兒は逃れた山の洞窟で出産（嬰兒の泣き声）。亡くなった嬰兒を埋葬。 ・喜兒は、お堂のお供え物や野鳥・小動物をとって、生きのびる。喜兒の髪はボサボサの白髪となる。 ・八路軍の戦闘シーン。 ・八路軍を村人が喜び迎える。
第五幕のプロット	<ul style="list-style-type: none"> ・白毛仙女の噂話が広がり、王大春はピストルを持って白毛女を追う。白毛女となった喜兒と八路軍兵士となった王大春が再会し、八路軍が村に来て、地主に復讐することを告げる。 ・地主の家は村の人々に壊され、屋号の看板が燃やされる。 ・村の区長による会議で、黄世仁、穆仁智二人は捕らえられ、二人の罪が村人の歌で次々と明らかにされる。 ・喜兒と八路軍の王大春が、以前のように、二人で仲良く農作業をするラストシーン。

（出所）張駿祥、程季華主編『中国電影大辞典』上海辞書出版社、1995年、21ページおよび長春電影製片廠撮影『白毛女』北京北影録音録像公司（VCD）参照。

面で歌が流れ、歌詞と字幕によって、地主の悪行が映し出されている。八路軍（紅軍）の戦闘・行軍シーンが短く数回映し出され、救いの手を差し伸べた八路軍兵士は常にやさしく頼もしく描かれている。歌劇『白毛女』公演に対して、共産党中央からいくつかの意見が出されたが、映画『白毛女』では、例えば楊白勞の服毒自殺のシーンは歌劇のシナリオと同様になり、結末の地主黄世仁の裁かれるシーンでも、銃殺の宣言などのシーンはなく、農民の歌の中で地主の悪行が挙げられた。歌劇『白毛女』の原著から大きな変化は見られなかった。これらの映画シナリオの改編は、歌劇『白毛女』上演の成功をそのまま、映画『白毛女』の全国上映につなげたいとする魯迅芸術学院のスタッフの考えである。

歌劇『白毛女』は話劇作品として上演され、映画『白毛女』は娯楽映画の中の「音楽劇」（ミュージカル）として制作され、公開されたといえる。

(3) 映画『白毛女』の上映

中国の映画上映は1951年に中国電影發行放映公司が成立してから、映画配給は国家による「統一買付、統一配給」方式をとり、特に農民の映画料金は都市部の映画館での映画料金の10分の1以下の低料金または無料で映画を鑑賞することができた²¹⁾。これを可能にしたのが、1951年に成立した共産党の農村映画隊であり、600余の農村映画隊が組織され、劇場を持たない農村部に映画上映機材を搬入し、夜間に「野外放映」を行なった²²⁾。農村映画隊による映画放映は1985年には約4万隊にまで増加し、1985年国務院から「關於制止向農民乱派款,乱收費的通知」が出されるまで、農村映画隊による映画放映が続けられた²³⁾。

1950年に制作された映画『白毛女』は都市部での映画館や農村部での農村映画隊による野外放映によって、たちまち全国的なヒットをみたといわれている。また「白毛女」は書籍・新聞などの出版物でも話題となり、特に漫画本である連環画が1951年に出版されたのを契機に、『白毛女』は小中学生などの若い世代においても広く知られるものとなった²⁴⁾。

三 バレエ『白毛女』の制作

(1) バレエ『白毛女』の制作と日中友好

表5、表6は松山バレエ団の中国公演関係史である。1946年、芦原英子を中心とする舞踊家が集まり、「東京バレエ団」が結成され、「白鳥の湖」の公演があり、松山樹子もその一員として加わった²⁵⁾。この公演の終了後の1947年に、松山樹子、清水正夫によって、東京・青山に「松山バレエ団」と「松山バレエ研究所」が設立された²⁶⁾。

1950年、帆足系（ほあしけい）、高良とみ、宮腰喜助の3人の政治家は初めて訪中し、帆足は映画『白毛女』を鑑賞し、周恩来首相のはからいで、映画『白毛女』のフィルムを日本

映画『白毛女』論

に持ち帰った²⁷⁾。この映画は日中友好協会の宮崎世民（みやざきせいみん）によって、全国で「白毛女上映会」が行なわれ、松山バレエ団の松山樹子らが『白毛女』を鑑賞し、バレエ劇としての制作を企画した²⁸⁾。

表5 松山バレエ団の中国公演関係史（その1）1946年～1965年

	松山バレエ団の歩み	主なできごと
1946年	「東京バレエ団」の結成	国共内戦（～1949年の中華人民共和国の成立）
1947年	・松山樹子、清水正夫結婚 ・松山バレエ団の結成（団長清水正夫）	台湾の二二八事件
1950年	・帆船計らの訪中。周恩来首相から映画『白毛女』を日本に持ち帰る。 ・日中友好協会の宮崎世民らにより、日本各地で「白毛女上映会」を開催（松山樹子、清水正夫らも映画鑑賞）	・中ソ友好同盟 ・朝鮮戦争（～1953年）
1952年	坂井照子等訳『白毛女』未来社の出版。	中国国際貿易促進委員会成立
1953年	・中国戯劇協会主席田漢より『白毛女』の資料が届く。 ・松山バレエ団による『白毛女』の制作が始まる。	第一次五カ年計画
1955年	・2月 松山バレエ団によるバレエ『白毛女』の初演（日比谷公会堂）。以後1958年までに日本全国で40回余におよぶ公演。 ・5月 ヘルシンキの世界平和大会に参加する日本代表团（大山郁夫団長）に松山樹子加わる（中国代表团は郭沫若団長）。日本代表团は北京へ。 ・10月 市川猿之助一座『勸進帳』の北京公演（政治協商会議講堂）。 ・10月 松山樹子は北京からモスクワを経て、周恩来首相の招待で再び北京訪問。 ・10月 北京飯店で周恩来により、喜児を演じた王昆、田華、松山樹子の3人が国内外の記者に紹介される。 ・11月 松山樹子は日本に戻る（帰国途中で『白毛女』作曲家馬可に会う）。	第一回アジアアフリカ会議
1957年	・梅蘭芳による東京公演（歌舞伎座）	・反右派闘争 ・大躍進運動
1958年	・3月～5月 松山バレエ団の第一回訪中公演（46名、『白毛女などの』公演回数28回、北京、重慶、武漢、上海）。『北京日報』等で大きく報道される。 ・梅蘭芳による京劇『白毛女』の公演	・人民公社の設立
1964年	・9月～12月 松山バレエ団の第二回訪中・訪朝公演（50名、『祇園祭』などの公演回数38回、北京、平壤、ハルビン、南京、上海、広州）。 ・北京での人民大会堂の劇場での公演では、毛沢東主席、劉少奇国家主席、周恩来首相、朱德委員長、董必武国家副主席、膨真北京市長らと会談する。	周恩来「四つの現代化」提唱

（出所）清水正夫『バレエ『白毛女』はるかな旅をゆく』講談社、1983年、森下洋子『バレリーナの羽ばたき』ゆまにて、1976年、119～164ページおよび愛知大学現代中国学部編『ハンドブック現代中国 第四版』あるむ、2013年、244～247ページを参照して作成。

表6 松山バレエ団の中国公演関係史（その2）1966年～1978年

	松山バレエ団のあゆみ	主なできごと
1966年	松山バレエ団の清水哲太郎の中国留学（2年間）。	中共「プロレタリア文化大革命についての決定」
1970年	日中文化交流協会主催バレエ『白毛女』公演（東京文化会館）（松山樹子主演『白毛女』の最後の公演）。	中ソ対立
1971年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月～12月 松山バレエ団の第三回中国公演（57名、『白毛女』など公演回数38回、北京、西安、延安、武漢、長沙、招山、上海、広州） ・ 10月 松山バレエ団 森下洋子、清水哲太郎主演『白毛女』公演（北京 中山公園） ・ 10月 松山バレエ団 森下洋子・清水哲太郎、佐原冬子・外崎芳昭のダブルキャストによる『白毛女』公演（北京、天橋劇場）。周恩来首相との会見。 	林彪事件
1972年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7月 中国上海舞踊団『白毛女』の日本公演（東京、神戸、大阪、名古屋、京都）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ニクソン大統領訪中 ・ 日中国交正常化
1973年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2月松山バレエ団、中国舞劇団の合同公演、森下洋子主演（北京、天橋劇場、『紅色娘子軍』、日本での公演は5月）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鄧小平復権
1976年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『白毛女』主演の森下洋子と清水哲太郎が結婚。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周恩来、毛沢東、朱徳死去 ・ 華国鋒が総理代行 ・ 四人組逮捕
1977年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11月 松山バレエ団の中国小公演・森下洋子主演（北京、上海）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 華国鋒が文革の終了を宣言
1978年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月～11月 松山バレエ団の第四回中国公演（62名、『コッペリア』など46回。北京、大同、西安、成都、昆明、杭州、上海）。李先念国家主席、ウランフ国家副主席と会見。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日中平和友好条約 ・ 中共11期3中全会で鄧小平による改革開放政策がスタート

（出所）清水正夫『バレエ『白毛女』はるかな旅をゆく』講談社、1983年、清水哲太郎、森下洋子『バレエファンタジー』小学館、1983年、172ページおよび愛知大学現代中国学部編『ハンドブック現代中国 第四版』あるむ、2013年、244～247ページを参照して作成。

表7は松山バレエ団による主な『白毛女』改編部分である。1953年に中国戯劇協会の田漢主席から、歌劇『白毛女』の資料や写真が届き、松山バレエ団により、ストーリー、衣装などに工夫がなされ、三幕のバレエ劇が作り上げられた²⁹⁾。

1955年2月12日、バレエ『白毛女』の初演が、日比谷公会堂で行なわれ、周恩来首相のはからいで、1958年に第一回の中国公演、1964年に第二回の中国公演、1971年に第三回中国公演、1978年に第四回中国公演を行ない、松山樹子、森下洋子、佐原冬子が演じた喜兎は、中国の多くの観客の感動を呼ぶこととなった³⁰⁾。1972年の日中国交正常化、1978年の日中平和友好条約の締結される前に、日本の民間バレエ団である松山バレエ団が、世界で初めてのバレエ劇『白毛女』を中国で上演した功績ははかりなく大きい。

映画『白毛女』論

表7 松山バレエ団による主な『白毛女』の改編（部分）

舞台構成	主な改編点
形式（幕）	時間を短縮し、五幕の歌劇→三幕のバレエ劇に改める
エンディング	喜児と王大春が固く抱き合い、「ごらんなさい。苦しかった時代は終わり、あの太陽のような新しい時代が始まるのです」
台詞、作詞	坂井照子、島田政雄等訳『白毛女』未来社、1952年出版を引用
作曲	林光による作曲を加える
白毛女の衣装	シルバークレー（銀のねずみ色）の中国服
白毛女の髪	銀白色に近いかつら

（出所）清水正夫『バレエ『白毛女』はるかな旅をゆく』講談社、1983年および愛知大学現代中国学部編『ハンドブック現代中国 第四版』あるむ、2013年、68～69、199ページを参照して作成。

表8 バレエ『白毛女』の主なスタッフ

制作陣容	主な担当者
台本	松本亮、石田種生
演出	土方与志
作曲	林光
舞台装置	吉田謙吉
照明	穴沢喜己男
衣装	土方梅子
制作	清水正夫
振付、主演	松山樹子

（出所）清水正夫『バレエ『白毛女』はるかな旅をゆく』講談社、1983年、70ページ。

表9 バレエ『白毛女』と「样板戯」関連史（抜粋）

1963年	・12月 江青により、北京バレエ劇団、上海バレエ劇団の『白毛女』、『紅色娘子軍』のリハーサルが建議される。
1965年	・4月 『人民日報』4/4付版に、『白毛女』の改編記事が掲載
1966年	・5月 『人民日報』5/7付版に、歌劇『白毛女』、バレエ『白毛女』の喜児・楊白勞の精神を称える記事が掲載。 ・11月 11/28付、周恩来の文芸界に対する講話の中で、日本の松山バレエ団のバレエ『白毛女』の公演を称える。 ・11月 11/28付、江青は文化大革命についての講話を発表。京劇『砂家浜』『紅灯記』『智取威虎山』『海港』『奇襲白虎団』、舞踊劇『紅色娘子軍』『白毛女』、交響曲『砂家浜』を「样板戯」にすることを発表。

（出所）李松『「样板戯」編年史・前篇』秀威資訊科技股分公司、2011年を参照して作成。

(2) バレエ『白毛女』と「样板劇」

表9はバレエ『白毛女』と「样板劇」の関係を抜粋した年表である。松山バレエ団の

1958年の第一回中国公演、1964年、第二回中国公演は中国でテレビ中継がなされ、中国各地で反響を呼んだ³¹⁾。特に、松山樹子が扮したデザインした中国服の白毛女役は、中国の劇団関係者に大きな影響を与えた³²⁾。歌劇『白毛女』、映画『白毛女』では、ボロの衣装を着た喜児が白毛女になっていた役柄が、バレエ『白毛女』では、喜児が光り輝くシルバークレー（銀ねずみ色）を着た白毛女に変身し、白毛女が屈強な意志をもった女性の象徴として、とらえられるようになった³³⁾。

1966年11月28日、バレエ『白毛女』の交流で、日中友好を進めようとする周恩来首相の文芸講話に対し、同日江青も講話を発表し、『白毛女』など8つの文芸作品を「样板劇」（革命的模範劇）に指定する講話が発表された³⁴⁾。魯迅芸術学院の歌劇『白毛女』、東北電影制片廠の映画『白毛女』を継いだ松山バレエ団のバレエ『白毛女』は、文化大革命の中で、「革命的現代バレエ」として中国のバレエ団によって、改編されて公演が続けられ、本来の歌劇『白毛女』の公演は文革終了後の1977年まで中止された³⁵⁾。



写真1 上海市舞蹈学校『白毛女』パンフレット（上海市舞蹈学校、1970年）



写真2 松山バレエ団『白毛女』（第三回訪中）パンフレット（中国人民对外友好協会，1971年）

おわりに

1940年に延安の魯迅芸術学院で制作された歌劇『白毛女』は、新中国を代表する文芸作品として公演を重ね、1950年には、魯迅芸術学院の関係者が結集し、映画『白毛女』が制作された。1955年松山バレエ団により、バレエ『白毛女』が制作され、周恩来首相によって中国公演が実現し、日中文化交流の礎となり、1972年の日中国交回復に大きな影響を与えた。一方、『白毛女』は江青によって1966年に「样板戲」に指定され、文化大革命期文芸の象徴となった。

本論では、歌劇『白毛女』の王昆、郭蘭英、彭麗媛、映画『白毛女』の田華、バレエ『白毛女』の松山樹子、森下洋子、佐原冬子の演じた喜兒は、日中友好と文化大革命という異なる二つの歴史的事象のシンボルとなったことを再考した。

注

- 1) 延安魯迅芸術学院では陝西省北部で愛好されていた「秧歌」（民間舞踏）の形式を生かした「新秧歌劇運動」の基礎に立って歌劇『白毛女』が制作された（『中国画報』中国画報社，東方書店，1977年，総347期，19ページおよび村松一弥『中国の音楽』頸草書房，1965年，136～137ページ等参照）。
- 2) 毛沢東主席，周恩来，朱徳など共産党中央の指導者が観劇した（同上『中国画報』19ページ，同上書，137～140ページおよび孫玄齡著，田畑佐和子訳『中国の音楽世界』岩波書店，1990年，138～142ページ等参照）。
- 3) 同上『中国の音楽世界』141～142ページ等参照。
- 4) 歌劇『白毛女』で喜児を演じた王昆は「第一代白毛女」，郭蘭英は「第二代白毛女」，彭麗媛は「第三代白毛女」と呼ばれる（中華人民共和國文化部芸術司主編『紀念歌劇《白毛女》首演七十周年文集』上海世紀出版集團，2018年，25ページおよび同上書，142～143ページ等参照）。
- 5) 歌劇『白毛女』は文化大革命期には江青，張春橋，王洪文，姚文元「四人組」によって，公演，放送，出版が禁止され，劇団関係者が迫害された。その後，1977年に北京で再上演された（同上『中国画報』，21ページおよび同上書，144ページおよび田本相主編『中国話劇百年図史（上巻）』山西教育出版社，2006年，244ページ等参照）。
- 6) 毛沢東『毛沢東論文芸』人民文学出版社，1992年，34ページ等参照。
- 7) 董健『中国現代戯劇総目提要』南京大学出版社，2003年，1552～1553ページ参照。
- 8) 中央戯劇学院は1950年に延安魯迅芸術学院，華北大学文芸学院，南京国立戯劇専科学校の基礎の上に設立された戯劇（演劇）の高等教育機関。初代院長は歐陽予倩，名誉院長は曹禺。演劇文学専攻，演技芸術専攻，舞台美術専攻，監督芸術専攻と演劇研究所から構成される国立の単科大学（田本相主編『中国話劇百年図史（上巻）』山西教育出版社，2006年，300ページ等参照）。
- 9) 張駿祥，程季華主編『中国電影大辞典』上海辞書出版社，1995年，21～22ページ参照。
- 10) 松山パレエ団の第1回中国公演は「日中文化交流協定」の「第1回文化使節」という名前で公演旅行が行なわれた（『民話』第1号，未来社，1958年，39ページおよび同上書『中国電影大辞典』，983ページ参照）。
- 11) 同上書『中国電影大辞典』，887ページ参照。
- 12), 13) 同上書『中国電影大辞典』，21ページ等参照。
- 14) 同上書『中国電影大辞典』，951ページ等参照。
- 15) 同上書『中国電影大辞典』，531ページ等参照。
- 16) 陳強は1947年に東北電影製片廠の俳優となった（同上『中国電影大辞典』，97ページ等参照）。
- 17), 18), 19), 20) 高波『“样板戯”』雲南人民出版社，2010年，90ページ等参照。
- 21) 1987年まで，中国農村における農民の一人あたりの年間の映画料金は0.3元～0.5元であり，この料金で年間に10～20本の映画を見ることができた（中国電影家協会，広幕電影電視部事業管理局編『中国電影年鑑1986』中国電影出版社，1987年，中国電影家協会，広幕電影電視部事業管理局編『中国電影年鑑1988』中国電影出版社，1989年参照）。
- 22) 中国電影家協会，広幕電影電視部事業管理局編『中国電影年鑑1990』中国電影出版社，1992

映画『白毛女』論

- 年，343ページ等参照。
- 23) 楊柯「一九八五年電影發行放映工作回顧」(中国電影家協會，広幕電影電視部事業管理局編『中国電影年鑑1986』中国電影出版社，1987年) 参照。
 - 24) 映画『白毛女』の成功の要因の1つは，主演に新人女優の田華(1928年生まれ)を抜擢したことであり，喜児のイメージが形成されたといえる(程季華，李行，吳思遠『中国電影図史』中国傳媒大学出版社，2007年，246ページおよび李国萍「中国電影連環画」新華出版社，2006年，45ページ参照)。
 - 25) 清水正夫『バレエ『白毛女』はるかな旅をゆく』講談社，1983年，48ページ。
 - 26) 同上書，50ページ。
 - 27) 同上書，57ページ。
 - 28) 同上書，57～67ページ。
 - 29) 同上書，68～69ページ。
 - 30) 同上書，94ページ等。
 - 31) バレエ『白毛女』は1955年1月に東京で初演されてから，まず日本国内各地を巡演した。その後1958年の第1回中国公演を経てから1964年の第2回中国公演まで，バレエ『白毛女』の公演を行なうのは松山バレエ団だけであり，中国のバレエ団に大きな影響を与えた(森下洋子『バレリーナの羽ばたき』ゆまにて，1976年，132～134ページおよび同上書，130ページ等)。
 - 32) 1958年の中国京劇団『白毛女』の公演では，松山バレエ団の松山樹子が作った白毛女の衣装が中国京劇団に貸与され，以後の白毛女衣装のモデルとなった(清水正夫『バレエ『白毛女』はるかな旅をゆく』講談社，1983年，68ページ)
 - 33) 同上書，68ページおよび前掲『バレリーナの羽ばたき』133ページ参照。
 - 34) 李松『「样板戲」編年史・前篇』秀威資訊科技股分公司，2011年，456～468ページ参照。
 - 35) 松山バレエ団の『白毛女』と上海舞踏学校の『白毛女』では演出においても大きなちがいがある。例えば松山バレエ団『白毛女』のエンディングは主役の喜児と大春が涙ながらに別れを惜しむシーンとなっているのに対し，上海舞踏学校『白毛女』のエンディングは，主役の二人がカラリと力強く解放へと向っている(前掲『バレエ『白毛女』はるかな旅をゆく』199ページ，『中国画報』総290期，中国画報社，1972年，14～19ページおよび『中国画報』総347期，中国画報社，1977年，18～21ページ等参照)。